



「大学の教育成果に関するアンケート」結果報告

1. 調査の概要

本学では、教育力の向上に資するデータの収集を目的として、本学卒業生の採用企業等に対し、アンケート調査を実施いたしました。

実施期間：2021年9月7日（火）～9月30日（木）

実施方法：紙媒体でのアンケート

2. 調査結果

【設問1】

経団連が2020年3月に公表した「Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」において、産学が協働で取り組む「10のアクションプラン」が示されています。大学に求められるアクションプランの一つに「卒業、成績要件の厳格化など教育の質保証を通じて、学生が身に付けたスキル・資質・能力を明確にする」ことが挙げられており、本学においても、学生が学修を通じて修得した知識や能力の可視化を検討したいと考えております。つきましては、企業・団体等産業界においては、学生を採用するにあたり、大学生の学修内容のどのような点を重視しているのか、ご意見をお聞かせください。（自由記述）

- ・ 学生時代に身に着けたスキル・能力は、ITスキルや、語学力など、社会人になってからも有用なものもあり、その修得状況は採用にあたり、参考にしております。ただ、「このスキルを持っているから採用する」「この能力が足りないから採用しない」という事はなく、その学生を全般的に見て採用しております。
- ・ 学修内容について、個々の項目の修得状況のみを重視しているわけではなく、何故そのスキルを修得しようと思ひ、修得するために、学生時代にどれくらい頑張っ身につけたのか、その中で、自分でどう工夫してきたのかという過程も参考にさせて頂いております。
- ・ 社会に選ばれるために、今まで通りではなく、これまでのあたりまえを疑い考えていく必要があります。⇒敷かれたレールを走るだけでなく、レールを作っていける力があるか。企業が示す「求める人物像」には、社会人に必要とされる考え方、資質・能力などが表れているので、このようなものも参考に、大学卒業時まで学修されることを期待します。
- ・ 採用に当たっては以下のようなことを重視しています。

1. 高いコミュニケーション能力
2. 自立性
3. マネジメント能力

大学の学修内容でいえば、

1. 他者を理解する、多様性を理解する国際交流、留学体験、学内外での積極的な文化活動・奉仕活動



2. 自立ができるためには、自信をつけるために一般教養を高める、数理的思考を学ぶ
3. 計画性、企画力、判断力、リーダーシップを併せ持って、プレゼンテーション能力を高める手法を学んだり、自らがファシリテーターになって、人と企業を結び付ける企画をゼミでおこなっていくなど。

【設問 2】

Society 5.0 においては「論理的思考力と規範的判断力をベースに社会システムを構想する力を備えた人材」が求められます。大学教育においては、政府の AI 戦略実現に向けた「文理を問わず、全ての学生がリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI を習得できるようにする」という方針に基づき、「数理・データサイエンス・AI 科目の開講」「実践的なデータサイエンス教育の実施」などに取り組んでいます。なお、本学の卒業生（卒業から 5 年経過した卒業生）に、「現在の仕事をするうえで不足しているもの」について聞いたところ、上位回答は「IT リテラシー」「外国語運用能力」「プレゼンテーションの力」「数理的な思考」「リーダーシップの役割の理解」でした。これらの力について、実際の就業現場では、どのような場面で活用されているのでしょうか。ご意見をお聞かせください。（自由記述）

「IT リテラシー」

- ・ モバイルデバイス、業務システム（基幹システム）、クラウドサービスなど仕事にかかわる IT 機器やサービスを使いこなすスキルが高いほど、業務の効率化や生産性の向上に繋がります。
- ・ システム関連の業務だけでなく、業務の効率化のため RPA の活用など幅広い場面で活用されています。
- ・ 使いこなすことができるスキルがある若手職員に、動画の編集やパワーポイントでの資料作り、来場者データの解析・集計をさせています。
必要とされているスキルは、チラシ一つを作るにも、構成力、センス、一般常識、社会の規範、言葉選び、コストパフォーマンスを管理できる力を含めた力が必要です。
- ・ インターネットでは、様々な情報（ネットニュース、各種ホームページ等）があり、リアルタイムに情報を入手することが可能です。業務上役立つ情報に敏感にアンテナを伸ばし、情報の真偽を見極め、的確に収集をし、業務に生かすことが常に求められています。
- ・ IT リテラシーが低い場合、サイバー攻撃や個人の SNS などを通じて情報漏えいが起こり信用の低下を招くだけでなく、世の中の動きをリアルタイムでとらえることが出来ず、様々なビジネスチャンスを逃すことにつながります。

「外国語運用能力」

- ・ 外国人観光客への対応。
- ・ 海外企業やマーケット調査、情報収集。
- ・ 一般的な外国人対応の他には、取引先の海外支援などの場面で必要になる場合もあります。
- ・ 社内の人材確保の観点で、外国人を含むダイバシティの活用が進んでおり、外国人とのコミュニケーション能力の必要性が増加しています。



- ・ さまざまな利用者・来館者・出演者への対応が迫られるので、必要な力です。語学が堪能な職員がいるということも、職場の売りになるからです。窓口業務に、電話対応業務に、出演者対応に必要な場面もあります。

「プレゼンテーションの力」

- ・ 社内でも、チーム内の日常のコミュニケーション、社内会議などプレゼンをする機会が多くあります。
- ・ IR活動（株主・決算等）、広報活動。
- ・ 出店やテナント・取扱商品等の取引先との交渉。
- ・ 行政折衝、地域住民への説明。
- ・ 新規事業の創出などにおける社内外プレゼン。
- ・ 地権者や地域住民との交渉。顧客提案。
- ・ この能力は、企画提案だけに必要なものではありません。日常的にも必要な力です。窓口業務では、自分のことばで、地域の方々にわかりやすく丁寧に説明する場面が多くある職場です。

門切り調のお役所言葉では通用しません。例えば、コロナ禍では、ガイドラインに沿った説明では、一方的な押し付けでしかないので、人によっては理解できない方も多く、理解をするよう説明するには、相手の立場に立って、出来ることを提案、プレゼンしていきます。公的な業務をする場、市民利用施設などでは、この能力を、説得する力として読み替えていただいてもいいかもしれません。

もちろん、企画提案の時、他社・他者に説明するとき、地域や学校など、さまざまなステイクホルダーに理解を求め提案をするときのも十分必要です。

「数理的な思考」

- ・ ≡プレゼンテーション力。社内外で相手を説得させるためには数理的思考が必要です。
- ・ 事業計画を立案にするあたり、数理的思考が必要な事業収支は不可欠です。
- ・ 会計財務担当に限らず、数理的思考をもって財務諸表を読み込み、会社の状況を把握することが必要です。
- ・ 事業化にあたっては、定性的な検証だけでなく、定量的な検証は不可欠です。数理的な思考で、客観的に分析する能力が必要です。
- ・ 意見が合わない場合もどこを根拠に反対しているか、どこが一致しているかが明確になり、建設的な議論が可能になります。
- ・ 今後は特に弊社グループでも採用していく DX・AI などにおいて、様々な分析をし見える化するにあたり、数理的な思考を働かせ、様々な数値を活用することが大前提となってきます。
- ・ 他社と協業する際、当社の利益だけではなく、取引先の利益も考える必要があり、その際、数理的な思考が必要となります。
- ・ 文化においても、数理的な思考は必要不可欠。文化においても事業として行っている以上、比較すること、目標を数値化ことは、常に求められています。MBO制度を取り入れていて、



職員にはMBOを課し、半年ごとにチェックをして、年度末で達成度を確認させます。人事考課で評価をし、数値目標の達成度も処遇に反映させています。

職員レベルでは、担当している業務の予算管理をさせています。ただ、数字を動かすのではなく、推測をたてることで、中長期における、先見性が担保されます。文化芸術を生業としているものには特に必要な発想です。割と欠如しているのが現状です。

「リーダーシップの役割の理解」

- ・ 年齢・役職に関わらず必要不可欠。
- ・ 業務推進のため、社内(上司、部下、同僚)及び社外関係者に対し、先頭に立って取組む姿勢が大切です。
- ・ 会社内の大小様々な組織(グループ)に属して業務を行う際に、全員が同じベクトルを向いて取り組み成果を最大に発揮するために、リーダーからの指示を全員が理解する事が、業務において非常に重要と考えております。
- ・ 変革を引き起こせる「リーダーシップ」が必要です。
市場の飽和、個人・法人など消費者需要の複雑化や変化の高速化など、多様化する現代社会においては、意義や信念に基づいたチャレンジができることが必要です。既存の組織の現状に甘んじ、変革をしない人材では、世の中の動きについていけません。
- ・ 例えば、足許では新型コロナウイルス感染拡大における対応は急務。鉄道・バスなどの交通機関、スーパーにおける巣籠もり需要、テレワーク推進によるネットワーク環境・機器類の整備、コワーキングスペース確保、社内規則・運用の改正等、様々な対応を行っていくには、様々な会社・部署と連携が必要であり、「リーダーシップ」は必要不可欠です。
- ・ 自主的に動けること、自分で考えて、地域を動かすこと、人を動かすことが強く求められる職場です。そのために一番必要なのが、コミュニケーション能力。リーダーシップをとるためにはこれが不可欠。
- ・ 最初に必要なのは、人の話をよく聞くこと、傾聴です。コミュニケーション能力であり、そこから、信頼関係が生まれ、文化活動の支援や企画提案、地域を動かしていく連携事業などが生まれていきます。
- ・ もちろん、一般常識、社会の規範を守る能力、時代の潮流を察知する能力は必須です。専門知識は、あつたに越したことはありませんが、働きながらでも、身につけるぐらいの気概がある職員を求めます。

以上